

「人と街を大切にする」グループの強い意志

「人を、想う力。街を、想う力。」という三菱地所グループのブランドスローガンはPR戦略の一つかもしれませんが、決して実態の伴わない標語ではないと強く感じています。組織も人も、その素顔は危機的な状況ではっきりと表れますが、今回の地震発生で帰宅困難者が大量に発生した時のグループあげての迅速な対応を知り、私は、これほどまで「人と街を想う力」を自然に発揮できる会社はないと痛感した次第です。

自らを控えめに報告する地所グループらしく、3月11日の対応は本報告書の巻末にわずかしか紹介されていません。しかし、数日後に届いた礼状を拝見し、本当に心が洗われるような気持ちとなりましたので、私の判断で、ここに便りの一端を紹介させていただきます。

「暖かく安全な場所を提供して頂いただけでも感謝しておりましたのに、思いがけなく、十分な広さのカーペットや清潔な毛布まで配って頂き、(中略)すっかり恐縮いたしました」

「食べ物はどれも熱くてたいへんおいしく、また届けてくださったお若い方たちがみなさま優しい笑顔で温かく接して下さって感動いたしました」

「警備の方も常駐されて、安心して少し仮眠もとりました」

「大変な状況は丸ビルのみなさまも同じだったと思いますが、親切にして頂き本当にありがとうございました」

私は外部の者として純粋な気持ちで、「人と街を大切にする」グループの強い意志に対し、しかもそれをごく自然な形で実践される社員の皆さんの優しさと温かさに対し、心より敬意を表したく思います。



たか いわお
高 巖氏
麗澤大学 経済学部長
大学院国際経済研究科 教授

三菱地所グループの“人格”をさらに深めていくことを期待しています

3.11に発生した東日本大震災は、多くの企業において自らの存在意義を再確認するまたとない機会となりました。災害時の三菱地所グループは、現場のリーダーの自主的な判断により、様々な顧客の安全確保に積極的に取り組みました。このように瞬時に自らが考え、社員の皆さんが当然の使命として人命を第一に考えた対応に乗り出したのは、日頃から積み上げてきた訓練の賜物であり、また、企業理念が一人ひとりの信念にまで高まっていた結果だと思えます。

企業にも“人格”というものがあります。社会的責任を果たすためのいわゆるCSR活動は、多様な多くの活動を展開していますが、基本は、社員一人ひとりが個人としてどこまで、企業理念を自分の行動として実行できるかということに尽きます。今回の経験を社員皆さんで共有し、三菱地所グループの“人格”をさらに深めていくことを期待しています。

企業は、社会の課題をビジネスという方法論で解決する機関とも言えます。環境と安全の徹底は、今日、多くの人々の渴望するところ です。選択と集中で安全を守り抜く経営施策の確実な実行で、ステークホルダーの高い期待と信頼に応えていただきたいと思います。



江上 節子氏
武蔵大学 社会学部 教授

ご意見をいただいて



CSR委員会の社外アドバイザーである高 巖氏、江上 節子氏からは、当社グループに求められる課題について、社会動向を踏まえた具体的なかつ確かなアドバイスを頂戴しています。今回の震災対応については、高い評価をいただきましたが、今後も安全安心により一層努めて、お客様の目線に立った取り組みを進めてまいります。

そのために、社員一人ひとりが基本使命を自分のものとして理解し、様々な事業活動の中での行動につなげることで、ステークホルダーの皆さまの期待と信頼にお応えすべく、CSR経営を実践していきたいと考えています。

三菱地所(株) 取締役常務執行役員(CSR推進部担当) 藤澤 司朗